

教科担任部会 研究のまとめ

1. 学習指導に関して

(1) 成果

教科毎に担当者が替わることにより、子どもの学習態度に適度の緊張感が見られより集中して学習に取り組めるようになった。学級担任制にしばしば見られがちな甘えやなれ合いがない。

「専門の先生に教えられている」という意識が子どもの中にもあり、担任の目だけでは捉えきれない能力を引き出し伸ばすきっかけを作ることができる。

空き時間を授業の準備や教材研究、評価等の時間として活用できるので、全教科を指導していたときよりも質の高い授業をすることができた。その結果、授業を楽しんでいる子どもが増え、学力の向上につながった。

学級担任制の授業では、時間の使い方にけじめがなくがちだが、一単位時間の授業をより計画的に進めようとする意識が高まり、どの学級も同じ進度で授業を進めることができる。

教師の得意な教科を教えていることや、同じ授業を繰り返し行うことで、課題の提示の仕方から発問の仕方までの改善点に気づき、修正を加えながら授業を進めていくことができる。また、学級の実態を理解し、それに合わせた授業をすることができた。

(2) 課題

技能教科を複数担当し技能教科以外を教えていないと、その子の基礎的学力が把握できず、ノートのとめ方や発表等で疑問に感じることもあっても、意欲のなさが原因なのか基礎的学力が原因なのか判断に困る場合がある。

参考となる改善策・・・5年生で実施したC R Tの結果に早い段階で目を通して、児童の実態把握の参考にする。

担当教科の学力しかわからないため、個人面談等で保護者に対して話すことが難しい面があり、子どもの全体的な学力を把握しておく必要がある。

参考となる改善策・・・金ROM等の成績処理ソフトの活用により、担当教科以外の成績も把握しやすい環境を作る。

技能教科（図工の作品等）に関する児童の取り組みや作品に対するその子の「思い」を担任と共有することが難しい。

宿題の量の調整

参考となる改善策・・・職員室内か6年教室付近に「宿題お知らせコーナー」のような場所を設けて、各担当者が他教科の宿題を把握した上で宿題を出せるようにする。

2. 児童理解に関して

(1) 成果

担任以外のいろいろな先生とのふれ合いの機会が増えることにより、良い刺激を受けたり、担任が気づかない良さを見い出してもらうことができる。複数の目で見て育てていくことは、思春期の入り口に立つ子どもたちには有効であった。

学年全体の児童名を覚えたり、その子の特徴をつかむことができ、学年の行事の指導がやりやすくなった。

生徒指導上の問題が発生した場合は、複数の教師により子どもを多面的に理解することでよりよい指導につなげることができた。

学級担任及び学年担任としての自覚を持って指導にあたることができた。

指導上の様々な問題が発生した場合、他の学級の指導からヒントを得たり、気持ちを切り替えたりして自分の学級の指導に生かすことができた。

(2) 課題

担当している教科での姿しか見えない。

参考となる改善策・・・情報交換を積極的に行う。口頭で行う時間が取れないときは、「情報交換カード」のようなものを活用し、簡単なメモ程度でも構わないので学級担任に情報を提供できるようにする。

教科により授業態度が悪い子どもがいる。また、同じ担当者でも教科により子どもの授業態度に差が見られる。

学校生活に何らかの問題を抱えている子どもや、教科担任制による学習に不安を抱えている子どもがいる場合のフォローの仕方。

参考となる改善策・・・担任から担当への事前の連絡や、担当から担任への報告を怠らない。
なじめない原因を探りながら、実態把握に努める。

3. 学力に関して

(1) 成果

質の高い授業がその教科を好きにさせることに繋がり、子どもが意欲を持って学習するようになった。

6年生で教科担任制による指導を行うことにより、子ども自身も中学校を意識するようになり、ノートをしっかりとったり宿題を忘れずにするようになるなど、計画的に学習を進める児童が増えた。

4. 情意面の変化に関して

(1) 成果

7月と2月の2回にわけてアンケート調査を行った。教科担任制の授業に好感を持つ子どもが、全体の9割を超えている。

授業の分かり易さに関しても93%から96%に変わり、ほとんどの子どもがわかることの喜びを感じながら学習を進めることができた。

3年生の時から算数の習熟度別グループ学習を経験してきているので、担任以外の先生との授業に対する抵抗が小さい。

(2) 課題

教科担任制による授業を否定している子どもの中には、「教科によってうるさくなる時があるから」という理由を挙げた子どもがいた。

参考となる改善策・・・情報交換をもとに、生徒指導の面でも各担当が協力し合い、裏表のある問題行動を見逃さずに指導していく。

5. 時間割の組み替え・時数調整に関して

(1) 行事による組み替え

修学旅行(総合)、運動会(体育)、まつのみ音楽会(音楽)など、時期的にまとめ取りが必要なものを中心に時間割の組み替えを行い、終了後に調整してきた。

(2) 実習による組み替え

家庭科は実習以外の内容の時は2コマ続きで授業を行う必要性はない。そのため時間割では1コマずつ設定してある。しかし、調理実習の際は2コマ続きでなければ指導が困難なため、家庭科に続く他教科の時間を提供してもらい、実習前後に家庭科の時間を返上してもらい潰れた教科の指導を行うという形で調整した。図工の場合、2週で3コマという指導時間であり、1コマしかない週と2コマ続きの週がある。2コマ続きの指導が祝日や行事のために潰れた場合、著しい進度の遅れが見られ、調整が難しい。

(3) 時数調整の方法

一例として、教務王を利用して4月の段階で行事をすべて組み込んだ時間割を把握し、実施不可能で遅れる可能性のある教科の時数調整を念頭に入れて指導にあたることも可能である。

6. 補欠体制等に関して

空き時間が補欠にまわされないように配慮してもらい、教材研究や授業準備のための時間を確保していく。

参考となる改善策・・・自習にせずに、空き時間になっている担当が補欠の必要な学級に入り、自分の担当教科の授業を進めるということも可能である。

授業の準備との兼ね合いもあり、教科や単元により無理な場合もあるが、余剰時間の少ない6年生にとっては有効な方法の一つと考えられる。

7. その他

図工室を利用して授業をするためには、移動や準備に時間がかかることを考慮して、時間割の1時間目には組まない方がよい。

今年度は中学校1年生のテスト結果の報告を受けたり、教科担任制に関するアンケートに協力していただく形での交流があったが、中学校との連携を図り児童の指導に役立てていくための手だてをさらに検討していく必要がある。